

氏名 []

① この記事を要約しましょう。

② この記事を読んだ感想を書きましょう。

赤穂に巨大カルデラ

阿蘇に匹敵、8200万年前の地層

産総研調査

産業技術総合研究所（産総研、茨城県つくば市）は8日、赤穂市を中心とした相生市や岡山県備前市の一帯で、約8200万年前の地層に火山活動で形成された陥没地形、カルデラの痕跡を見つけたと発表した。恐竜が

産総研は2011年、中国地方の地質図を作製する一環で赤穂市の調査を開始。計約200日かけて市内を巡り、崖や谷に残る約8200万年前（白亜紀後期）地層で、噴火による陥没やマグマが流れた痕跡を発見し、見つかったカルデラの規模は南北約16キロ、東西約21キロで、約9万年前までにできた阿蘇のカルデラ（南北約25キロ、東西約18キロ）とほぼ同規模。赤穂は形成時期がはるかに古いと見られ、特有の凹状地形は



見られず、風化によってできた土地に現在の市域があるという。

かつて中国地方には活火山が多数あり、赤穂もその一つ。カルデ

ラを形成する火成岩や堆積岩は強固な地盤になり、地震などの災害に強いとされる。カルデラ周辺には、金やガラス繊維などに使われるろう石の鉱床が形成される特徴があり、実際に赤穂市坂越で鉱脈が見つかっている。産総研は「赤穂は恐竜時代のカルデラにできたまち。地盤の強さは防災面で強みとなり、地形を生かした観光などにも活用できるのでは」とする。

（西竹唯太郎）

NIEワークシート／中学～高校／社会、理科、総合、朝NIE